

新生情報工学部へようこそ

情報工学研究院長（学府長・学部長） 梶原 誠司



新入生およびご父兄の皆様、ご入学おめでとうございます。情報工学部・大学院情報工学府に新入生の皆さんを迎えることができたことを、教職員を代表して心よりお喜び申し上げます。

情報工学部は情報技術の基礎およびその様々な学問分野への応用について教育・研究するため、1986年に全国で初めての「情報工学部」として設置されました。情報技術の基礎およびその様々な学問分野への応用について教育・研究を行うことで、これまでに1万1千人を超える卒業生を輩出しています。その一方で、情報技術は急速に発展し、産業

の在り方のみならず私たちの生活も大きく変えており、この流れは今後更に加速していくものと思われ、情報技術の発展に伴う産業構造の変化や新しい社会ニーズに柔軟に対応し、更には情報工学部の持っている特色・強みを活かしていくために、今年度学部新入生より、学部組織のみならず入学試験や初年次教育等の方法にまで及ぶ大改革を断行いたしました。その改革は、入試改革、共通教育改革、学科再編、コース制採用の四つの改革からなります。

昨年度までは、入学試験時に情報工学科、電子情報工学科、システム創成情報工学科、機械情報工学科、生命情報工学科の五学科から一つを選択し、入学後はその学科を担当する教員のみから教育を受けていました。今年度入学生からは、入学試験は数学重視、理科重視、バランス型の三つの類に分けて合格者選抜を行っています。また、入学後の初

年次教育を共通化し、入試で選択した類に関わらず情報工学部の学生が最低限身につけておくべき基礎力をしっかりと学ぶようにカリキュラムを抜本的に見直しました。これまでは、一部の学科でしか学んでいなかった「情報セキュリティ概論」のような授業科目が全学科共通の必須科目で開講される他、学生の希望する進路の基礎となる科目を深く学べるように、選択科目の構成も変更しました。

学生の学科選択は2年進級時に行います。学科数はこれまでと同じ五つですが、知能情報工学科、情報・通信工学科、知的システム工学科、物理情報工学科、生命化学情報工学科で構成し、各学科を担当する教員も旧学科の担当に関わらず決められています。例えば、知能情報工学科は、改組前にも改組後にも同じ名前の学科として存在しますが、新知能情報工学科を担当する教員の約4割は、旧知能情報工学科以外を担当していた教員で構成されています。初年次教育の共通化の効果もあって、教員の専門性や情報工学部の特色を活かした学科構成、担当教員構成となっています。更に、学生の学科配属と

同時に、学科内に設定したコースを選択するコース制も採用しました。高校生や産業界に学科での教育内容をイメージしやすくし、学科の枠を越えた分野横断型教育や大学院博士前期課程への円滑な接続も意識した教育を容易にしています。

30年前の単にコンピュータをいこなすことや高性能なコンピュータを作ることに焦点をあてた教育研究から、インターネットやグローバル化に対応し、時々刻々生み出されてくる大量の情報を処理し活用するための高度な情報処理技術の教育研究の重要性が高まっています。人工知能、ビッグデータ、IoT、ロボティクス、ブロックチェーン等、情報工学が扱う技術がマスコミを賑わし、世間の大きな脚光を浴びています。情報工学部では、そうした新しい情報技術にも柔軟に対応し、更にそれらを進化させて、新しい世界を切り開いていく技術者・研究者を育成して参ります。新入生の皆さんには、これまで未体験だったことに積極的に挑戦して、最先端の情報技術により世の中を変える原動力になることを期待しています。